



高等部 3年 1組 職業科

「卒業後の生活 ～余暇 Part 2 「大人の休日充実くらぶ」～」

児童の目指す姿

- ・卒業後の豊かな生活の実現に向け、どんな余暇の選択肢があるのかについて知る。【知】
- ・拳がった選択肢について、卒業後の生活で利用するための課題や解決方法について考える。【思】
- ・実践や友達との意見交換を通して、自分の生活にどう生かすかを考える。【学】

題材構想 指導案検討会より

- ・育みたい資質・能力、どんな姿になってほしいか。
- ・興味・関心の整理。生活に根付く授業づくり。
- 単元・焦点化。
- ・深い学び～学んだことを家で体験。家庭の協力を依頼。



児童生徒の学びの姿

主体的な学び

- ・調べたこと（余暇活動）を実際に疑似体験する姿
- ・関心のあることを進んで調べる姿

対話的な学び

- ・友達の調べた余暇活動について情報共有する姿
- ・依頼する相手と依頼する内容を考え、自分から依頼する姿

深い学び

- ・地域や外部とのつながり。
- ・調べたことを実践する姿
- ・一人一人の豊かな生活へつながる姿

授業研究会から（課題、改善点、指導助言）

- 楽しそうなネーミングのパンフレットづくりに集中し、主体的に取り組んでいた。
- これまでの学びや経験がしっかりと積み重ねられている。
- △自分で具体的に計画（交通手段、チケットの購入方法など）ができるような学習への発展。
- △ICTの活用（実態に応じた入力・表出方法）
- ◆障害者の社会参加の観点や障害者が社会参加するにあたって必要なスキルや支援について考える必要がある。
- ◆個人と社会が相互関係する役割理論を用い、何らかの役割を果たすことでキャリア発達を促すことが必要。
- ◆ライフキャリアの視点からキャリア発達を捉える。卒業後も充実した余暇を過ごすことができるよう、個人のスキルアップ、他者の働き掛け（自分と人との関係性）、周囲の環境整備の3つの観点から考察して授業づくりを進めていくことが重要である。
- ◆卒業後にも活用できる冊子づくりをテーマも取り組んでいたが、この活動を3つの視点から捉えることで、個々のキャリア発達についてより具体的に考えることができるのではないか。

題材を通しての成果と課題

- 余暇の過ごし方について関心を持ち、情報を集めて余暇をより豊かにする意欲を高めることができた。
→具体的には、日常会話の中で話題にするようになったり、「自分で考えよう」「調べてみよう」とする姿が見られたりするようになった。）
- 自分で調べることで関心が広がり、家庭でも話題にしたり家族と一緒に出かけたりする生徒もいた。
→地域の施設の利用に関して、本人だけでなく家族のハードルも下がったと感じる。
- 卒業後の余暇活動の実践に関しては、保護者の協力が必要になる。本人が自分で「やりたい」と思ったことを相手（家族）に伝える力の育成や生徒によってはICTを使った活動（調べる際に一人では難しいため）などへのフォローが必要だと感じる。